

(5) 令和6年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月21日実施)	総合評価(3月28日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①社会で求められる基礎・基本的な学力や技能を定着させ、それらを活用できる能力を養うためにきめ細かな学習指導・個別支援の充実を図る。 ②本校の育てたい生徒像の実現に向けた特色ある教育課程を編成する。	①生徒の特性や学習到達度に対応した学習活動、個別支援の充実を図り、ICT機器を積極的に活用した組織的な授業改善を一層推進する。 ②育てたい生徒像を実現するために教育課程を展開する。	①学習内容のまとまりごとの振り返りを徹底し、本校の特色ある授業をより深化させ、ICT機器を積極的に利活用しながら基礎学力の定着を図る。 ①指導と評価の一体化の視点から組織的な授業改善が図れるよう、校内授業研修会等を実施する。 ②生徒のニーズを把握し、生徒の自己実現達成に向けた学習活動を展開できたか。	①生徒による授業評価の「授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた」の数値が3.5以上か。 ①授業の改善・工夫にICT機器を効果的に活用することができたか。 ②本校の育てたい生徒像の実現を測るアンケートや生徒面談を実施できたか。	①生徒による授業評価の「授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた」の数値が3.51で目標値を達成することができた、また同項目については、昨年の3.31を上回ることができた。 ①1学期、2学期に授業見学週間を設定し、ICTの積極的な利活用、指導と評価の一体化の視点から校内研修を実施し、各教科で授業改善の取組みを行った。 ②各学期に実施した個別面談を通して、生徒の学習意欲の高揚を図り、自己達成感を育てることができた。	①「授業の中で身についたことや、できるように実感することができた」の数値を4.0以上に設定しさらに生徒の基礎学力の定着を図る。 ①引き続きICT利活用の指導力向上について研鑽し、校内研修会及び教員間での指導方法や教材作成についての情報共有を行っていく。 ②全ての学校生活の場面において、育てたい生徒像、スクールポリシーの実現を図る。	○ICTを活用しながら生徒が主体的に活動・学習を進めることが、生徒による授業評価の目標達成に繋がっているのではないかと引き続き、生徒の主体的な学習活動を支援・推進して欲しい。 ○授業見学週間を設定し、ICTの積極的な利活用と指導と評価の一体化の視点からの校内研修は非常に良い取組である。取組を広げて継続して欲しい。	○生徒による授業評価の「授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた」の数値が3.5で目標値及び昨年度の値を上回ることができた。 ○ICTの積極的な利活用を含めた授業改善の取組みを各教科で行うことができた。 ○各学期の個別面談を通して、育てたい生徒像の考えを伝えることができたことにより、生徒の学習意欲の高揚に繋がるとともに生徒理解が一層進んだ。	○生徒が授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができるよう、引き続き生徒の主体的な学習活動を支援・推進する。 ○授業改善に資する職員研修を充実させて、生徒の発話や発表の機会を促す手立ての工夫などを図っていく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①基本的生活習慣を確立させ、社会生活で求められる規範意識や判断力を身につけさせ、他者と協働できる態度を育てる。 ②生徒一人ひとりが得意分野や強みを活かせるよう、自己肯定感の高揚に繋がる支援体制の充実を図る。	①生徒の生活習慣を把握し、健康管理や食育等の多角的な視点からも生徒支援を行い、規則正しい生活習慣を確立する。 ②生徒一人ひとりが積極的に取り組める学校行事等を企画、立案する。	①生徒支援を充実させるために、かながわサポートドックの情報・評価を積極的に活用する。 ②特別活動や各種学校行事等において、生徒が主体的に活動できるよう、職員と生徒の連携を密にする。	①かながわサポートドックの評価をSC、SSWとも共有しながら、適切な生徒支援ができたか。 ②行事ごとに生徒アンケート等を実施し、生徒が主体的に取り組みながら達成感を得られることができたか。	①生徒理解と適切な生徒支援の充実のために、校内生徒情報交換会を設定し、全職員で生徒の現状や課題を共有しながら、かながわサポートドックの情報・評価を積極的に活用することができた。 ②ケースによっては、保護者もSC、SSWの教育相談の利用もあり、組織的な生徒の支援体制を構築することができた。 ②特別活動や各種学校行事等の場面において、生徒会役員生徒が主体となって企画・運営をすることができた。	①特定の生徒の欠席や遅刻が多い。引き続き担任や家庭との連携を密にして学習活動に専念できるよう規則正しい生活習慣の確立に向けて支援する。 ②引き続き、ケース会議の充実を図るとともに、積極的な教育相談体制を継続していく。 ②今後も生徒会活動を始めとした生徒主体の活動の場면을積極的に設定し、生徒による自主的な学校行事を実施する。	○全職員で生徒の現状や課題を共有しながら「かながわサポートドック」の情報・評価を積極的に活用するほか、SCやSSWと連携するなどの生徒支援体制を引き続き維持・発展させて欲しい。 ○NPO法人が運営するカフェが生徒の居場所になっていること、そのことによって生徒の学校生活に一定の安定がもたらされていることは評価できる。	○教育相談活動におけるSCやSSWの活動に、生徒の利用だけでなく、保護者の利用もあったことは成果の一つであると認識している。 ○生徒の基本的生活習慣の確立は引き続き課題であり、今後も保護者、SC、SSW等との連携も密に図っていく必要がある。 ○文化祭や体育祭等の学校行事に生徒会役員の意見を取り入れた企画・運勢をできたことは評価できる。	○生徒指導・支援においては、引き続きSCやSSW教職員・保護者の迅速かつ適切な連携を図る。 ○組織的な支援を行うために、NPO法人の取組のことも含めて、支援に係る職員間の意識共有・統一を図っていく。
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの進路希望の実現に向け、4年間を見通し、学年間での連携を図りながら、段階的かつ組織的な進路指導・支援体制を構築する。	①生徒一人ひとりが職業観や勤労観を身につけながら卒業後のキャリア形成について主体的に取り組むことができるよう、組織的な指導・支援体制を構築する。 ②進路意識の向上を企	①学年ごとに目的を明確にした進路ガイダンスを実施し、適切な情報提供を行うとともに、段階的、かつ継続的な指導を通してキャリアを形成する。 ②インターンシップや	①進路行事後のアンケート結果等から、生徒の充実感や進路意識の向上を図ることができたか。 ②インターンシップや総合的な探究の時間の成果として、進路未決定の卒業生をな	①今年度は就職希望者1名、進路希望者2名が希望する進路を実現することができた。進路希望者については個別学習指導、就職希望者については面接指導等を早期から行うことができた。 ②インターンシップに参加することで、早期	①3年間または4年間を見据えながら各学年において段階的に「進路設計」、「進学」、「就職」について認識できるようなキャリア教育の指導方法を確立し、生徒の進路実現を図る。 ②今後も総合的な探	○進路実現に一定の成果が表れている。総合的な探究の時間等を活かした生徒の進路実現達成に向けた取組を継続して欲しい。 ○生徒個々の進路希望に寄り添った支援についても、見通しを持った、かつ、丁寧な指導を引き続き行って欲しい。	○生徒が希望する進路実現に一定の成果を見たと考えている。 ○地域との関りについては、従前の関係にとどまらずに、新たな活動場を開拓出来し、生徒自らが主体的に判断、行動でき	○3年間または4年間を見据えて「進路設計」「進学」「就職」について認識できるようなキャリア教育の指導方法を確立し、計画的かつ段階的な進路指導体制を整備する。 ○さがみはら若者

	視点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月21日実施)	総合評価（3月28日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			図した行事を実施する。	総合的な探究の時間を活用しながら職業観や勤労観を養う。	くす（減らす）ことができたか。	から明確な進路目標を設定することができた。また、総合的な探究の時間で様々な職業について調べ、発表する活動を通してキャリア形成をしていくことができた。	究の時間や地域連携等の活動を通して、生徒の進路実現を図り、地域に貢献する人材を育てる。	い。	るよう、その方策について探求していく。	サポートステーションや同窓生の経営する地元企業等との連携を強化していくことで、地域に貢献する人材を育成する。
4	地域等との協働	①地域の中の学校として、地域との関わりやつながりを取り入れた教育活動を充実させ、学校と地域の活性化を図る。 ②学校からの情報発信を積極的に広報し、家庭や地域社会との連携や交流を深め、地域に根差した学校づくりを推進する。	①地元自治会、地元関係機関との連携や交流を積極的に進め、学びに向かう姿勢を育む。 ②家庭や地域からの理解を深めるため、学校ホームページ等により効果的な情報発信を行う。	①地域行事へのボランティア参加や自治会との交流を積極的に図る。 ②学校ホームページや学校説明会等で、本校定時制の特色や魅力が伝わる広報活動を積極的に行う。	①卒業時に実施する特色アンケートにおいて活動に対する高い満足度を得られたか。 ②学校ホームページや学校説明会を通して、本校定時制の特色や魅力について情報を更新しながら本校の教育活動を広報できたか。	①卒業時における特色アンケートの回答において、生徒及び保護者から本校の教育活動についてはおおむね高い満足度を得られた。 ②学校 HP や中学校訪問、学校説明会を通して情報発信を更新しながら夜間定時制の教育活動を広報できた。特に、夜間定時制の授業公開の場を通じて、中学生や保護者に対して本校の特色を広報することができ、入学志願者も増加した。	①引き続き地域の小学校や老人ホームとの交流活動を始め、生徒が主体的に地域に参画することを促進していく。 ②昨年度より実施した中学校訪問や夜間定時制の授業公開の機会を積極的に利用しながら広報活動を行っていく。	○定時制の活動を理解するうえで、授業公開の場を通じた中学生や保護者に対する広報の取組は非常に有効である。次年度以降もこの取組を軸に広報活動を進めてもらいたい。 ○卒業時における特色アンケートにおいて、生徒及び保護者からおおむね高い満足度を得られたことは、定時制の教育に対する期待感の表れでもあると考える。今後も、このことを念頭に教育活動を展開して欲しい。	○学校の広報活動の一環である職員の中学校訪問及び授業公開を通して夜間定時制の特色や意義について効果的の広報することができた。 ○HP に掲載している学校紹介動画も定期的に更新するなどして、生徒の活動の様子をよりリアルに発信していく方策を考えていきたい。	○定時制課程が中学校不登校経験者等の学びの場としても有用であることを踏まえて、中学生やその保護者にとどまらず、中学校の教職員に対する PR 活動を工夫していく。 ○地域との関わりや連携を踏まえた活動について探究していく。
5	学校管理 学校運営	①生徒への支援等の時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ②防災意識や危機管理能力を高め、生徒の安全安心な学校生活を確保する。	①校務における ICT 機器の積極的な利活用や業務マニュアルの見直し等により、業務の効率化を推進する。 ②夜間定時制として地域の実態に則した、実践的な防災訓練の形態を検討する。	①ICT 機器の利活用を一層推進し、教職員間の業務連絡や各種会議を円滑に行う。 ②災害想定や防災訓練の内容等について見直し、検討する。	①オンライン環境の整備など、働き方改革をさらに進め、生徒と向き合う時間を十分に確保できたか。 ②生徒の在校が夜間であることを踏まえた実践的な防災訓練を実施できたか。	①校務における ICT 機器 Teams の積極的な利活用や入学者選抜業務マニュアル、成績処理マニュアルを更新、整備することにより、教職員間の情報共有を進め、業務の効率化と標準化を図ることができた。 ②夜間定時制における夜間の避難訓練や DIG 訓練の教育活動を通して生徒の災害・防災意識を高めることができた。	①引き続き、校務における ICT 機器 Teams の積極的な利活用や各種業務マニュアルの見直し・更新により、教職員間の情報共有を進め、業務の効率化を図る。 ②今後は、関係機関との連携・協力を得ながら防災訓練の内容等について改善する。	○夜間における避難訓練・防災訓練の内容については、関係機関との連携・協力のもと、工夫・改善を進めて欲しい。 ○働き方改革は引き続き進めて欲しい。	○Teams 等の ICT 利活用や業務マニュアルの見直し・更新が、教職員間の情報共有を進め、業務の効率化と標準化を図ることに繋がった。 ○地域の実状を踏まえた実践的な防災訓練の実施については、訓練時間が夜間であることなど、ハードルも高い。今後は、災害時の行動訓練といった視点からの工夫を図っていき	○引き続き、Teams 等の ICT 利活用業務マニュアルの見直しや更新を積極的に進めて、働き方改革を推進する ○防災訓練の実施については、災害時の行動訓練といった視点に立って、関係機関等とも連携・協力しながら工夫を図っていく。